



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 186
September
2008

トピックス

関係機関との防災協力推進

アラブ赤新月・赤十字社の訪問

ADRC客員研究員レポート

シャンブ・プラサド・マラシニ研究員（ネパール）

ADRCスタッフ紹介 No. 34

内山伸主任研究員

● 関係機関との防災協力推進 アラブ赤新月・赤十字社の訪問

2008年8月21日、アラブ赤新月・赤十字社の代表団がアジア防災センター（ADRC）を訪問しました。今回のアラブ赤新月・赤十字社の訪問は、アラブ域内の地域防災活動を開始する可能性を見据えたもので、アジア地域で防災活動を展開してきたADRCの経験を学ぶことを目的としていました。

ADRCの辻上研究員嘱託はADRCの活動に関するプレゼンテーションを行い、それに引き続いて鈴木所長及び角崎主任研究員は、人材育成を中心とするキャパシティ・ビルディングの重要性についてアラブ赤新月・赤十字社にアドバイスをを行いました。

アラブ赤新月・赤十字社の代表団は、ADRCへの訪問に加えて、国連国際防災戦略事務局兵庫事務所（UN/ISDR）、国連地域開発センター（UNCRD）、国際復興支援プラットフォーム（IRP）事務局、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター、兵庫県災害医療センターといった国際防災・人道支援協議会（DRA）のメンバーを訪問し、それぞれの活動について講義を受け、見学したほか、神戸赤十字病院への表敬訪問を行いました。HAT神戸のこれらの防災機関への訪問を通じて、アラブ赤新月・赤十字社の代表団は、DRAの防災への多角的な取り組みについて学びました。



● ADRC客員研究員レポート シャンブ・プラサド・マラシニ研究員（ネパール）

私の名前はシャンブ・プラサド・マラシニです。ネパール西部のシャンジャで生まれ、ネパール南部のナワル・パラシで育ちました。学業の傍ら1989年には金融業界で働き始め、1995年からは内務省に勤務しています。

私は防災の専門家として中央及び地方政府のさまざまなポストに就いてきましたが、とりわけ、ネパール各地の地方政府事務所で行政官としてのキャリアを積んできました。ネパールでは、地方政府が防災活動に

Asian Disaster
Reduction Center
アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.or.jp
http://www.adrc.or.jp

© ADRC 2008

続き

における主要な役割を担っています。

現在の法制度では、内務省が国家レベルでの防災活動の中心的役割を担っており、その頂点に中央災害救援委員会が設置されています。同委員会の議長は内務大臣が務め、委員は30以上の関連省庁の代表から構成され、事務局は内務省防災部が運営しています。事務局は、防災に関するすべての活動を円滑に行い、捜索・救済・救援活動を監督する任務を帯びています。つまり、私が勤務する防災部が防災に関する全ての活動を所掌しているのです。私の主な職務は、防災サイクル全般における部長の業務を補佐し、各省庁機関のみならず国際機関との協力関係を構築することです。



このたび、私はADRCの客員研究員として勤務することとなりました。客員研究員プログラムは、メンバー国との防災情報や経験を共有し、防災情報ネットワークを構築する好機を提供してくれるものです。

このプログラムは私にとっては、個人的な能力の強化とともに、組織的な防災能力の向上に役立つと思います。さらに、専門家の育成や効果的な政策・計画の立案、継続的な研究による災害対策の発展にも貢献するでしょう。私は、日本での6ヶ月間のプログラムを通じて、ネパールの防災能力強化に向けた取り組みに寄与することを確信しています。

● ADRCスタッフ紹介 No. 34

内山 伸 主任研究員

今年7月から清水建設株式会社よりADRCに出向している内山です。これまでは、技術研究所で地盤改良工法や地下掘削工事の施工合理化、建設廃棄物の有効利用などについて、主に地盤工学的な見地から研究開発に携わってきました。



今回、初めて防災に関わりますが、防災と地盤工学とは密接な関係にあると感じています。なぜなら、地盤は多くの自然災害の原因にも被害者にもなるからです。一方で、実際の社会的な被害やその軽減方法を考える場合には、住民や学校、地域といったコミュニティを主体に議論する必要があります。エンジニアには、工学的な知見や防災技術とコミュニティでの防災力強化とをいかに実的に連携させるかという意識が、今まで以上に求められるのではないのでしょうか。

アジア諸国の防災活動の進展に寄与するよう努めるとともに、これらの業務を通じて、今までに関わり得なかった様々な分野を経験したいと思います。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.or.jp までEメールをお寄せください。